

や やるぞ～ ま まけないぞ～ が がんばろうぜ～ た 楽しい学校になるように

私を嫌いになっても 山潟中を 嫌いにならないでください！

春が来ました。またやってきました。いよいよ新年度です。よろしくお願いいたします。

さて、今日は新2年生・新3年生の学級発表の日でした。新たなクラスで新たなスタートを切ります。そして新3年生は、修学旅行の班編成なども進んでいるようです。

この年度替わりのクラス編成の時期や集団活動の準備段階では、子どもたちの特に人間関係や相性等にもいろいろ気を遣いますので、クラスや班の編成にかなり頭を悩ませます。その傾向は年々大きくなっているような気がします。それだけ、子どもたちの人間関係形成能力やコミュニケーション力、人間関係構築の経験則が低下しているのでしょうし、それが我々の指導の課題であるにとらえています。

そこにいくと、私が教師になって3年目に担任したクラスのH君はありがたかった。

「男女の人数のバランスが悪いんで、こっちの班に動いてもらってもいい？」「いいっすよ！」。「君と仲がいい友達がいなくてグループになるけど」「いいっすよ！」。「今度中国から来た転校生と一緒にUSJ回ってくれる？」「いいっすよ！」。「クラスの□□がいつも昼休みひとりぼっちだから、今度体育館にでも誘って？」「いいっすよ！」。「このクラス俺が担任になっちゃって本当に悪いね。」「全然いいっすよ！」

勉強も運動もからきしダメな彼だったけど、「俺、だれと組んでも楽しくやっていけるんで。大丈夫っす。誰でもいいっすよ。何でもいいっすよ！」。愛すべき気のいいキャラクターだった。彼自身がそうだったように、逆に彼と同じ班やグループになることを拒む者は誰一人としていなかった。いつしか、私にとっての、育てたいと思う生徒の理想像、不動のNo1の座を彼が占めるようになった。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

山潟中学校を(今以上に)いい学校にしたいと強く思っています。いい学校をつくるにはどうすればいいか、いつも真剣に考えています。多分、先生方も同じだと思います。

いい学校の定義は先生方にとってそれぞれ違うでしょうが、私が考えるいい学校とは、一言であえて言うならば、「居心地のいい」学校です。生徒にとっても、職員にとっても、保護者、地域住民にとっても、居心地を良くするためには何が必要か。人の融和です。集団としてのまとまりです。生徒、職員、保護者、地域住民、山潟中学校に直接的・間接的に関わるすべての人間の輪と和です。

自分が嫌いなタイプの間人もいるでしょう。相性や反りが合わない人間もいるでしょう。価値観が大きく異なる人間もいるでしょう。苦手なタイプもいるでしょう。私もいます。私がそう思うように、私をそう思っている相手もきっといるはずで。そのような中で、人間の輪と和を築くことが求められます。居心地のいい学校にするためには、いい学校にするには。

『考える・思いやる・鍛える』、『自己有用感』、『所属感』、『社会とのつながり』、『コミュニケーション能力』、『支持的風土』、『愛され応援され励まされる人間』、『感謝・謙虚・モラル』、『認め合い・助け合い・期待をかけ合い・高め合い』等々、これらは新潟市や山潟中学校の教育ビジョンや経営方針、そして普段から私が開示しているキーワードです。これらが大切なのは、生徒以上に、ひょっとすると我々教職員集団の方かもしれません。

なぜなら、我々は生徒のモデルであるべきだからです。モデルだからといって、品行方正・聖人君子である必要もありません。魅力ある人間性や強烈なキャラクターは、生徒の成長にも大きな影響をもたらしてくれるはずですから。まあ、それを許容できる範囲と、受け止める保護者や同僚のスタンスについては、また別問題だとは思いますが。

というわけで、我々が教材研究をたくさんやって、職員研修を必死にやって、授業力をつけても、それだけでは一朝一夕に学力は伸びないと思います。めちゃくちゃハードな特訓をしても、長時間練習したところで、それだけでは簡単には強いチームにはならないし勝てないものです。

成果を上げるには、人の融和、人間関係、居心地のよさ、雰囲気等々を良くすることが一番です。教職員がまとまれば生徒がまとまる、教職員がまとまれば保護者や地域もまとまる。教職員がまとまれば学力は必ず上向く。教職員がまとまれば、生徒指導や保護者対応で大きく傷口を広げるような事態は起きないはずなのです。

みんなお手々繋いで仲良くということではありません。過剰に仲良くなり過ぎて、その人が客観的に悪いことや間違ったことをした時に、しっかり注意や指摘ができなくなるような、いわば、「馴れ合い」の関係ではいけません。逆に、相性が合わない、気に入らないからといって、他人を安易に批判したり評価できるほど、我々一人一人はパーフェクトな存在ではないということです。誰にでも、短所もあれば長所もある。好き嫌いとは別に誰にでも公平公正に、その人間のいいところを見つけてつき合うことに意義があると思うのです。

今回のクラス編成にしろ、我々教職員がいろいろ悩みに悩んでベストと思って編成したつもりでも、いざ蓋を開けてみたらどうなるかはわかりません。人と人が織りなす人間関係の化学反応は、それを組織し形成する当事者の手に委ねられているのです。

我々生徒・教師・保護者・地域住民は、私にとって大切な家族です。家族であっても、もちろん怒りたいこともあるし、しっかりしてよ、と思うこともあります。でも、みんな大事なかけがえのない存在です。家族がせつない思いをしていれば自分もせつない思いになりますし、何とか力になりたいと思います。

ということで、これまでの未熟な自分を振り返り、自戒の念と先生方へのお願いを込めて……

【自戒7箇条】

- 1 好きになる必要はない。でも理解するように努めよ！
- 2 人の噂はしてもいい。でも悪口は言うな！
- 3 怒ってもいい。でも、どなるな・キレルな・傷つけるな！
- 4 保護者の気持ちは、自分がその親子の立場になって考えろ！
- 5 外部の人間を大事に扱え！（電話・接客対応）
- 6 自分第一・家庭大事でOK。でも、勤務時間内は全力疾走・全力投球！
- 7 凡時徹底・一点集中！ 「あいさつ」が人としての一丁目一番地